

教員不足について市教委と交渉

組合「職場のたいへんさが伝わっていないのではないか」

市教委「重大さ・難しさは認識し、努力している。」

5月17日、組合からは委員長・書記長、市教委からは教職員課長と担当職員二人、指導課統括指導主事の計4名が出席しました。

これに先立ち、5月2日に文書で年度当初に教員不足でこまっている職場の現状を伝えていました。交渉ではこれを踏まえ、教員配置は都教委の責任であることは前提としつつ、市教委としてできることがどう行われているか質問しました。また、「一人くらい足りなくても今いるメンバーが頑張れば何とかなる」などと受け止められていて、職場の大変さが伝わっていないのではないか、と管理職や行政に対して不信の声があることを、実際に管理職が大変さを過小評価していた実例も挙げて伝えました。

市教委からは、都教委も心配しているケースもある、市のホームページで代替職員を募集していて少しだが成果もある、大学まで出向いて免許所有者を探している、管理職も、市教委の教職員課・指導課も日々連絡を取り合っ懸命に対応しているが、それでも人が足りず苦慮している、との回答がありました。人がみつかったも、都の名簿登載など手続きを経なければならないので時間がかかる、病気休暇はこれだけ多くの取得者が出ると想定していない、など制度上の問題があることも明らかになりました。

組合から、今後について、①都に改善を要望すること②今でも無理をしている職場でさらに病欠が出るなどしていっそう深刻化しないよう配慮し、また実際にさらなる教員不足が生じることも予想して対応すること ③今後欠時数をカバーするにあたって、児童生徒や教職員に無理が生じないように柔軟に対応すること、を求めました。個々のケースについてのやり取りの後、教職員課長からは次のようにまとめの回答がありました。

この先、さらに年度途中の欠員が予想されるし、次の点で、その重大さ・難しさは認識している。

- ① 教育活動は止めるわけにはいかない。
- ② 教職員の仕事は専門性が高く、簡単に代わりが見つからない。
- ③ 多忙化で心身を病むケースが増えている。
- ④ 産育休の制度が充実し社会の理解も進んでいるが、代替者の準備がたりない。

以上を踏まえて対応したい。

組合から、だからこそ、ふだんから人員配置にもゆとりが必要、「ぎりぎりの職員でも、なんとか回っているからいい」としては、いざというとき無理が出ることを指摘し、対応を重ねて要望して終わりました。

これからも、困っている事例は組合に情報をお寄せください。市教委に伝え対応を求めます。さらに、都と国の教育予算を大幅に増やすことが必要です。現在取り組んでいる署名をさらに進めていきましょう。